

幸才又邇僑



20230604

VOL.7

HANOAME

紫陽花:ISuN

信通マオキ

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について: 贈る♡花 (イスン)

7次元の階層構造が具現化した世界に…マ〜とたわむれる



紫陽花: ISuN

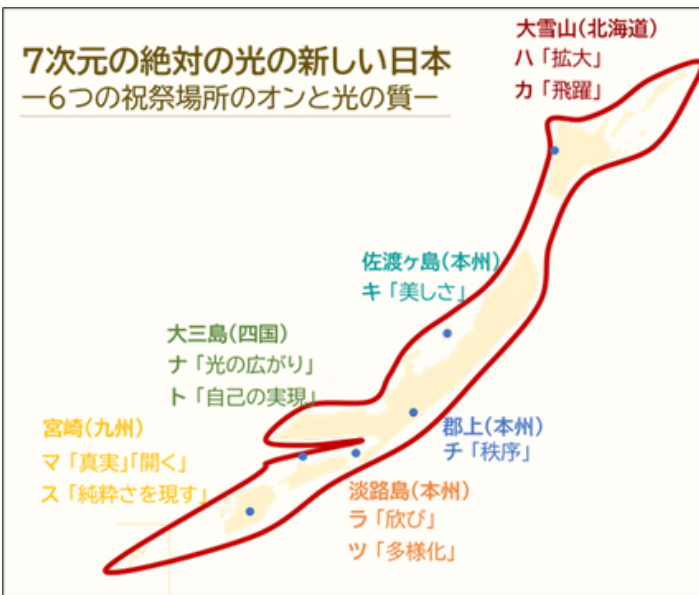
光を生きるあなたへ

光ンヤン

第7回 「いざ、日本の7次元の目覚めの先へ」

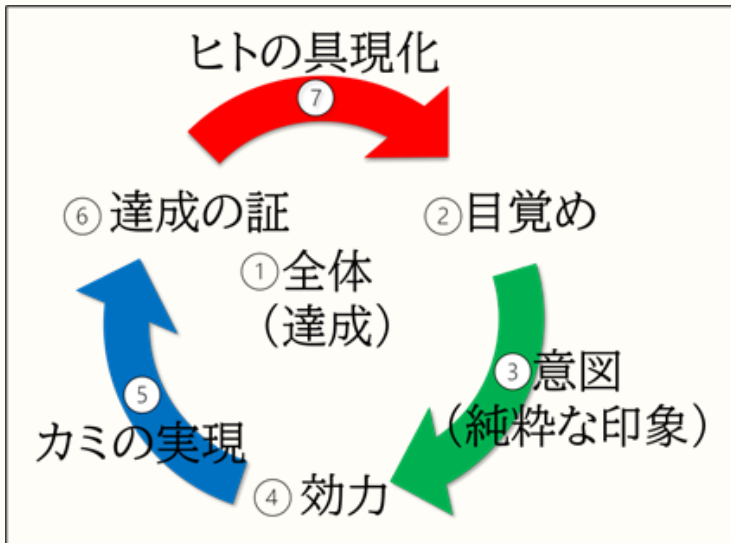
ヲキンンヤン ありがとうございます。

おかげさまで日本が絶対の光の7次元に目覚めました。



今後私たちは、この新しい7次元の日本の目覚めを、7次元の階層構造として具現化していきます。

すなわち、光の円環構造である、全体（ステップ1）と目覚め（ステップ2）となった日本を、意図（ステップ3）によって、効力（ステップ4）を創造し、カミの実現（ステップ5）を響かせ、達成の証（ステップ6）を観て、ヒトの具現化（ステップ7）を現すのです。



では、意図（ステップ3）とは、効力（ステップ4）とは、カミの実現（ステップ5）とは、達成の証（ステップ6）とは、ヒトの具現化（ステップ7）とは、为什么呢？ 私たちは、これからそれらを一つ一つ明らかにしていきながら、確実に日本の7次元の階層構造を具現化していきます。それによって、すべてのヤノアの7次元への移行が完了します。

ヲキンンヤン ありがとうございます。



7次元の階層構造が具現化した世界に…セミはいるのかしら？

第7回 キリヲ(眞部塩)さんについて

ヲキンキツマ ありがとうございます。

今回は、キリヲ(眞部塩)さんについてお伝えいたします。

【キオマ食堂・講座運営担当】

皆さまが今ご覧になられている、キオマ通信の編集長もされております。



Q1. キリヲさんにとってK-PVTとは

A1.

K-PVTの実習の体験が進むたびに、ンヤン先生から教わる知識は本当のことなのだ実感でき、その実感が創造活動の支えとなっています（もはやこの道を進むしかない…という諦めにも似た心境でもあります）。

Q2. キリヲさんにとってKIRとは

A2.

いつもみんなと一緒にいる会社だなあと。いつも一緒に、お昼ごはんやときに夜ごはんまで、みんなと同じものを食べながら、知らないうちに大切な何かを育ててしまっている感じがあります。

それは大切でありながらも、とても普通で、淡々と、感動もなく、好きも嫌いもお構いなしに、ただ静かに育っているという風情です。

皆で集まるときに、お忙しい中、手作りのお菓子やチャイを振る舞ってくださるなど、とてもきめ細やかに気配りをされる方です。こういった質がキオマ食堂のお食事やお仕事に現れているなあと感じます。いつもありがとうございます。ごちそうさまです😊

ヲキンキツマ ありがとうございます。



植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

第7回 空豆の成長段階から、すべては順を追った展開をしていて繋がっていることに気づく

ヲキンツケオ ありがとうございます

最近の今治畑では、空豆の収穫をして、キオマ食堂に提供しています。

祝祭を終えて、久しぶりに今治畑の空豆をみると、数本の空豆の鞘が黒くなっていて、病気になったのかなと驚きました。でも調べてみると、空豆が完熟し乾燥し種になっている状態でした。

空豆は、鞘が下がっているものを収穫時期として収穫します。でも、黒くなって種となった空豆をみると、鞘が下がってはならず、頭上に上がったまま黒くなり種として完成しています。

この光景をみたときに気づきがありました。

それは、はじめから種になることを達成としている空豆と、食べられることを達成としている空豆があることに気づきました。

空豆の苗の全体としては、種になることが達成ですが、鳥や人に食べられることを想定している空豆もあるかとも思い、人にも空豆にも個々の役割というものがあることに気づきました。

それがひとつの普遍意識からみた、多様性というものではないでしょうか。

更に翌週になると、ほぼ全体の空豆が黒くなり、空豆の階層（ステップ）が変わりました。階層が変わるとは、全体で変わることを感じました。

それは、個々の空豆の成長状態とは関係なしに、空豆の全体として次の階層に変わることです。

ルートラーナ活動では、全体として進化をすることを意図して活動していますが、空豆の生育状態から全体で進化するとは、こういうことなんだと気づきました。

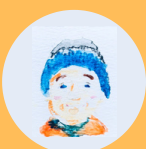
つまり、一つの種の空豆から分岐して、たくさんの空豆が出来ています。

でも俯瞰して空豆の全体としてみたら、すべての空豆は繋がっていて、一つの種から同じ根っこから、順を追った展開によって成長しているのです。

人間も普遍意識というひとつの光から現れています。

4次元レベルでは、各人の進化成長段階が違うようにみえますが、光という全体という観点でみたときには、すべてのマコニもヤノヤも繋がっており、みんなが順を追った展開で進化成長することに気づきました。

ヲキンツケオ ありがとうございます。



7次元の階層構造が具現化した世界に…次の達成（8次元の階層構造を具現化する）を観る

第7回 大三島の祝祭

ヲキンワナム

ありがとうございます

梅雨に入り、大三島も雨が降る日が多くなってきています。自宅に階段に巣をつくっているツバメの巣作りもひと段落しています。

雨の合間の晴れると同時に、虫や鳥たちが一斉に飛び交う姿に躍動を感じています。

5/20に大三島も含めた、日本各地で湧き上がる純粋な水によって日本各地のチームとつながり、日本に7次元の目覚めをもたらし、7次元の階層構造を具現化することを達成として祝祭が行われました。

祝祭当日、前日の冷たい雨から過ごしやすい天気となって景色がとてもクリアに見えていました。達成の証である竹林での贈り合い、祝福のプログラム、明るさと静けさが最初から広がり、私たちは最初からある達成を形にするために、視察を重ねてきました。

そして、それぞれの役割を果たし、つながっていることを感じ、静かな安心感と信頼を感じていました。

祝祭場所から見える景色は島全体が静寂に包まれている感じでした。

祝祭中、静寂と明るさと広がりを感じながらはじまり、そのうち虫や鳥が寄ってきて、粋の無い繋がりや広がりを感じていた。

そして、日本の7次元の目覚めという達成を、皆が創造の源となり、小さな達成を繰り返すことで、受け取ることができたと感じています。

ヲキンワナム

ありがとうございます



第7回 念

ヲキンヤリノ ありがとうございます。

ヤリノはTCM育成プログラムの復習を週末に少しずつ行なっています。

が…ヤリノはノートを書くことが苦手です。

学生の時から如何にノートを書かずにテストをクリアするか、ということばかり頑張っていました。教科書を読んだら目を閉じて暗誦したり、その辺のどうでもいい紙の裏にメモリ、覚えたら紙を捨てる、という風にしていました。嫌々書いた数少ないノートも基本的に見直すことはしませんでした。ノートを所有していることそのものが面倒くさかったからです。

見直すと言えば、テストも終わったら見直しをせずに寝ていました。ケアレスミスを直せば少し点が上がるのがわかっているのに、どうしてもそれが嫌ですぐに寝ていました。

今思えば執念がなかったのです。ノートを書くにしてもテストを見直すにしても、「絶対に覚える」「絶対にいい点数を取る」という執念がそれを可能にするのだと思います。

念。「念を押す、念を入れる、入念に行く」、そういったことがヤリノには欠けがちです。ネンというオンには、

ネ…芯が形成される、支える

ン…完全な目覚め、静寂の確立、全体性の具現化

という知識があります。普遍意識の揺らぎに意図という振動が作用し、形という芯の通ったものとして具現化される創造のステップと通じるものを感じます。

でも漢字を見ると「今」と「心」…どちらもあんまりTCMっぽくないですね(笑)そう、念ではなく、作法によって時間を創造していくことを今学んでいるのです。

他者に光を観ること、他者の進化のために生きることが忘れず、精進します。

ヲキンヤリノ ありがとうございます。



北海道祝祭で見た東雲湖



第7回 自我の発達

ヲキンワトホ
ありがとうございます。

ヲキンワトホ ありがとうございます。

自我は、こころの最深層におけるもっとも精妙な機能であり、個別性を与える原因です。

自己は個別化することで、自身の完全性を多様性に満ちたこの世界として創造します。

個別生命は、自我を主人公として、自己に経験を与えることで成長します。

自我の発達とは、その核となる良心が、自立性、自律性、統合性を獲得してゆくことです。

ヲキンワトホ
ありがとうございます。



第7回 祝福！

ヲキンナエン
ありがとうございます

キオマ食堂です。
先日、祝祭前後で一週間ばかり、キオマ食堂を留守にしました。
その間、届く野菜の受け取りやら、チラチラッとキオマ食堂へ足を運ぶことはありましたが、
お隣のクリニックにも誰もいないお休みの日、
ひと気のないがらんとしたキオマ食堂は、
静寂とは異なる静かさで、なんにもない空間でした。
始まりはそこから。
一年前の6月から始まりました。

ひとの気配がないことは、空間をこんなにもなにもなくさせる。
そのことで、ひとが持つ存在感とその影響力を一層感じることになりました。
ひとが、空間をいくらかでも魅力的にできることも。
キオマ食堂という場所で、私たちメンバーや仲間たち、ヤノアの方々、一般の方々が創造する空間。
それらがとても愛おしく、眩しく、懐かしく思えました。
笑顔も表情も賑わいも、ささやかな会話や、食器を流す水の音さえも。
庭の景色の移り変わり。
さえずる鳥の鳴き声、間もなく始まるであろう蝉の大合唱。
すべて。

キオマ食堂が祝福の場所であり、祝福の溜まり場(?)となる第一歩は、
その場所にいる者が、まず祝福する者であることではないかと。
もしよろしければ、みなさまもそれぞれの場所で意識を共に。
一緒に精進していけることは、連帯感と尊さと感謝を生みます。

光も愛も、展開し拡大していくキオマ食堂。
いつの日か私たちがキオマ食堂で受け取る達成には、溢れんばかりの静かな喜びが！
只今絶賛練習中につき、少しお時間いただきます。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

ヲキンナエン
ありがとうございます



第7回 その7

ヲキンチケエ
ありがとうございます。

チケカフェがひっそりとオープンして、3ヶ月が経ちました。毎度ありがとうございます。一日2時間×26日。だいたい2日分の時間、この場を開いていたということですね。昼食をいただいたあと仕込みを始め、開店前に改めて静寂を感じてから、午後2時半にオープンするのですが、毎度おなじみのセリフが「うっわ、もう3時やん」。気がつくラストオーダーの4時を迎え、4時半にクローズ。片づけをし、何事もなかったように場を静寂に還し、5時過ぎに店を出る。時計、というものが示す時間と、自身が経験している時間に、どうもギャップがあるようにわたしには感じられてならんのですが、お越しくださったことのあるみなさまはいかがでしょうか。

さて。先週から飲み物のメニューに、ジンジャーエールが加わりました。自身にとっては、生まれてこのかた飲んだことのなかった飲み物で、ちょうど一年前、ルートラーナの仲間と某焼き鳥屋で大事な話をぼつぼつしながら、その日はやけに蒸し暑かったのと、引っ越し直前、環境も自身も変わるタイミングにいたこともあってか、普段ならスルーしていた名前に目が留まり、注文してみたのが初めての出会いでした。

運ばれてきた、よくある緑色の瓶に入ったきれいな飲み物の味も、仲間と何を話したのかも覚えていませんが、そのときの淡い空気感、お店を出て歩きながら見あげた、青が深まった夜空云々を、作法に沿って飲み物としてあらわすと、こうなる。そういうメニューです。

作法、と言いながら、鍋に素材を合わせてぐつぐつ煮ているその脳内では、ぐるりの「ばらの花」がリピート再生されていたので、一見すると、静けさからは程遠かったわけですが、そういう表面的な自身の心の動きとはまったく別のところで、静寂を感じてくださっていた方々がいらしたことを、のちに知るようになった次第です。

続く。

ヲキンチケエ
ありがとうございます。



コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第5回 内側の欣びを広げる

ヲキンワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第5回です。

私たちは、欲しいものを手に入れ、やりたいことをやることによって満足感、達成感を得ることもできますが、それは一時的なものであり、それだけでは完全に満たされることがありません。

他方で、私たちは、外側に幸せを求めるのではなく、自身の内側にある純粋な思いや欣びを感じ、それを現して生きることがもできます。内側にある欣びは、初めから満たされた状態であり、これをいくら外側に現しても無くなることはありません。

K-PVTは、自身の内側にある光を直接体験し、それを響きとして具象化するテクニックです。日々の規則的な実習でこれを繰り返していると、内側にある光が自身の真実（純粋な思い）であることを感じるようになり、日常においてそれを現すことができるようになっていきます。このような活動のことをミコトと言います。K-PVTはミコトを生きるためのテクニックです。

ヲキンワラン
ありがとうございます



7次元の階層構造が具現化した世界に…ある乗り物はどんなものなのか？

第7回 紫陽花の季節にぐるぐるまわって

ヲキンキリヲ
ありがとうございます

店先に紫陽花が並び始めたのと同時に、雨降りの日が増え始めた、ここ今治です。
皆さまがお住まいの地域のお天気模様はいかがでしょう。

雨といえば、水たまりや川の水面に、雨粒が作った波紋の輪っかが重なる様子を眺めていると、目の前がまぶしくなり、うしろに倒れそうになることがよくあります。
いくつもの波紋が、まるでフラワーオブライフを描いているように感じられ、たとえ完全なフラワーオブライフを描けなくても、「その過程は十分に美しい」と目の前がまぶしくなるのです。

最近、皆でとても大きな光の円環構造を現すという目的の元、仲間とも、個人でも、小さな円環を作りまくる日々ですが、その円環たちがきれいな模様となって広がっていくさまを、肌で捉えるようなふしがあり、その感覚に意識を向けると、やはり目の前がまぶしくなります。

紫陽花のつぼみが次々と開くさまにも、なぜか同じような感覚を覚えるのですが、本号の表紙のイラストを見たとき、欣喜が沸き立つようでした（あんな柄のスカートが欲しいなあ）。
次ページでは、光ンヤン先生の力作、欣喜でいっぱい！の新連載がお目見えします。
このページをめくったあとの皆さまのお顔を想像すると、とてもワクワクして、無事に本号をお届けできたことを、とても欣ばしく感じます。

それでは、次回は約2週間後のアノハのハ、新月の日にお目にかかれますよう。
本号もお読みくださり、ありがとうございます。
2023年6月4日、ハノアのメの満月の日に。

ヲキンキリヲ
ありがとうございます



贈る花





光の生命体「マ~星人」-1- いっぱいだって飛びでいっぱい



マ~星人!? と思われた方はこちらへ

ルートラーナ手仕事工房 [Ma ManuFactory] では、みんなでマ~(真実) を現すワークショップを企画中です!



魚たちもつられてマ~ (魚だけに)



KoToHa *Integral Research*